

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成20年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4075400327		
法人名	ケア・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地 (電話番号)	福岡県鞍手郡鞍手町大字室木801番地 (電話) 0949-43-3900		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成20年12月24日

【情報提供票より】(平成20年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤10人	非常勤9人 常勤換算10人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(平成20年11月20日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.3歳	最低	59歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鞍手町立病院 ・ 有吉病院 ・ 西尾病院 ・ 日高歯科 ・ 高科歯科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い中庭の中央には、グループホームのシンボルである楓の大木が植えられ、四季折々に利用者の目を楽しませている。お天気の良い日は、中庭を望む広々としたウッドデッキに椅子を出してお茶を楽しんでいる。この日は職員の連れてきた子犬がウッドデッキの中で利用者と一緒にたわむれ、利用者の気持ちを和ませるなど、ホーム全体が穏やかでゆったりとした雰囲気にもなっている。ホーム長の介護に対する熱い思いを全職員が理解し、利用者には家族のようにそっと寄り添う職員の姿と、安心して暮らす利用者の姿が見られる。近所の高齢者が気軽に立ち寄り、老人会からボランティアの申し出てや近くの小学校との交流、また近隣の方からは野菜などの差し入れも多く、地域にしっかりと根付いたグループホームである。また、町の健康フェスタでは介護相談を行うなど、ホームと地域の人々が密に交流を図る関係で、地域密着型サービスとして今後益々期待されるグループホームかえでである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム長、職員の努力で前回の要改善点は大幅に改善されている。今後は、「権利擁護に関する制度の理解と活用」「家族等への報告」「同業者との交流を通じた向上」「災害対策」などに取り組むことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長や職員は自己評価の意義を理解し、評価を介護サービスの質の向上に活かし、具体的な改善に取り組んでいる。今回の自己評価も2ユニット毎に職員全員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は2ヶ月に1回開催し、家族代表、老人会会長、区長、役場の職員、民生委員で構成し、事業報告や行事の案内、ホーム運営に関する意見など、活発な意見交換の場になっている。今後は、参加者を増やし、会議に参加してもらい、ホーム運営のため、積極的に問題点を協議し改善に向けて取り組んでいくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見、苦情、不安などを気楽に出してもらつため、玄関に意見箱を置いたり、家族の来訪時に、さりげない会話の中で聞き取ったりし、意見や苦情が言いやすい雰囲気作りを心がけている。
重点項目	盆踊り、餅つきなど地域の行事には積極的に参加し、近所の小学校との交流も年4回ある。近所の高齢者が気軽に立ち寄り、近隣の畑で採れた白菜や大根の差し入れも多く、利用者と職員は一緒に漬物を作ったりして、地域との交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心」を基本理念として、「ぬくもり、やさしさ、安心、そして地域とのふれあい」をモットーに、利用者が地域の中で穏やかに安心して暮らし続けていけるよう支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に理念を確認し実践に向けて取り組んでいる。新規の職員も必ず理解し周知している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の高齢者が気軽にホームに立ち寄りたり、近隣の畑から野菜の差し入れがあるなど、地域とのつながりは密である。また、近くの小学校との交流、盆踊り、餅つきなど、地域との交流は盛んである。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組んでいる。評価を活かし、具体的な改善に取り組んでいる。		職員一人ひとりが自己評価を分担して作成し、自己評価、外部評価の意義をさらに理解し、サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の家族代表、老人会会長、区長、役場の職員、民生委員などで構成され参加している。議題としては、事業報告や参加メンバーからの質問や意見等を受け、活発な意見交換の場になっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の健康フェスタに参加し、介護などの相談を行うなど、市町村と連携して認知症の啓発に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度の研修会に参加し、利用者や家族に説明できるよう資料も揃えている。</p>	○	<p>職員全員がいつでも利用者やその家族に説明できるよう理解を深め、制度が必要になったときに備えていくことが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1度家族の来訪時に、利用者の近況報告、金銭管理等を報告している。</p>	○	<p>ホーム便りを再開し、行事などの写真を盛り込むなど、利用者の日々の暮らしぶりがより細やかに伝わるよう工夫することが望まれる。</p>
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関ホールに「ご意見箱」を設置し、家族からの意見や苦情が言いやすい雰囲気作りを心がけている。また、意見や苦情が出されたときはその都度話し合いホーム運営に反映させている。</p>		
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者と職員は馴染みの関係が出来ている。異動がやむえない場合、細やかな声かけなどを行い、不安な気持ちを与えないよう努力している。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別、年齢などの制限はない。職員の希望などを聞きながら職員が生き生きと働ける様配慮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる</p>	<p>ミーティング時に人権に係る話をし、職員の人権に対する意識付けを行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
13	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験や習熟度の段階に応じた研修が受けられるよう支援している。また、併設の小規模多機能の職員を社内研修会として受け入れ、ケアの向上に繋げている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の健康セミナーなどで同業者と交流する機会があり、情報や意見交換をして、サービスの質の向上に繋がっている。</p>	○	<p>グループホーム協議会を立ち上げ、学習会、相互訪問などの交流を通じてサービスの質の向上を目指していくことが望まれる。</p>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学、体験入居を通じ、徐々に馴染めるように配慮し、利用者と家族が安心して、納得を得てから入居していただくよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は、人生の先輩であるという思いを職員が共有し、園芸や書道、生け花、料理など、利用者が、得意なものから教えてもらうことも多く、一緒に過ごしながら支えあう関係を築いている。</p>		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との日常の関わりの中で、思いや希望の把握に努めている。意向の表出の難しい利用者は、過去の履歴や情報などで家族に相談しながら意向の把握に努めている。</p>		
18	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月1回カンファレンスを行い、利用者、家族の意向や要望、医師の意見、職員の意見を出し合い介護計画を作成している。</p>		
19	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月に一度行なっている。利用者一人ひとりの心身の変化に応じて、その都度、家族や職員と相談し、家族いの了解を得て計画を作成している。了解も得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の送迎、理・美容院の付き添い、コスモスや菊人形展を見にいたり、宗像の海を見にドライブをするなど、利用者や家族の要望に応じてホームの多機能性を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意見を大切に、かかりつけ医の受診の支援をしている。また、緊急時にはホーム提携病院で対応し利用者が安心して適切な医療を受けられるよう体制を築いている。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向けた支援の方針は、入居時に利用者や家族に伝え、職員を含め全員で方針を共有し、急変時には関係医療機関と密に連携をとり利用者、家族は安心してサービス提供を受けることが出来る。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録など、個人情報の取り扱いには、特に気をつけている。職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、一人ひとりの尊厳を守るケアを心がけている。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、一人ひとりのその日の心身の状態に合わせて出来る限り希望にそって、その人らしく過ごせるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調や気分を考慮しながら、利用者と職員と一緒にテーブル拭きや配膳を行い、利用者の家族や近所の方からの差し入れの野菜を使った料理を、同じテーブルで利用者と職員が和やかに楽しく食べている。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの体調や希望を聴きながら、入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む利用者には、言葉かけの工夫や家族に協力をお願いし対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のラジオ体操、園芸、編み物、テレビ観賞、カラオケ、花見、ドライブ、外食など、利用者一人ひとりが生き生きと喜びのある日々を過ごせるよう気晴らしの支援をしている。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩コースを一緒に歩いたり、気候の良い日は広々としたウッドデッキに椅子を並べてお茶を楽しむなど、戸外の空気に触れられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。職員は利用者の癖や傾向を理解し対応している。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備え、避難経路、避難場所を各ユニットに掲示し確認している。	○	地域の人々の協力を得ながら、夜間を想定した避難訓練や、災害時に備えて非常食、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養摂取や水分量を記録し、職員が情報を共有し、健康状態を把握しながら必要に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の準備時、台所に漂ってきたゆずの香り、包丁の音などが家庭的な雰囲気を感じさせる。ホームの壁面には書道の得意な利用者の作品や手作りの作品、また中庭の楓の葉が飾られ、リビングにはクリスマスツリー、ウッドデッキには今年初めてクリスマスの電飾が飾られ、利用者が季節を感じ居心地良く過ごせる様工夫している。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、一人ひとりの使い慣れたなじみのものを置き、写真や日用品など、好みのものを持ち込んでもらい、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		